

問 14-1 (リビングウィル、事前指示について)

「治る見込みがなく、死期が近いときには単なる延命医療を拒否することをあらかじめ書面に記しておき、がんの末期などで実際にそのような症状になり、本人の意思を直接確かめられないときはその書面に従って治療方針を決定する。」(リビングウィル) という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

問14-1	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
賛成する	290 70.73(%)	73 94.81(%)	425 81.26(%)	135 75.84(%)	63 84(%)	986
患者の意思の尊重という考え方には賛成するが、書面にま	66 16.1(%)	4 5.19(%)	55 10.52(%)	23 12.92(%)	8 10.67(%)	156
賛成できない	17 4.15(%)	0 0(%)	12 2.29(%)	4 2.25(%)	1 1.33(%)	34
その他	9 2.2(%)	0 0(%)	14 2.68(%)	7 3.93(%)	1 1.33(%)	31
わからない	28 6.83(%)	0 0(%)	17 3.25(%)	9 5.06(%)	2 2.67(%)	56
合計	410	77	523	178	75	1263

欠損値の度数 = 100

問 14-1 補問 1 (リビングウィル、事前指示について)

(問 14-1 で 1 をお選びの方に) 書面による本人の意思表示という方法について、わが国ではどのように扱われるのが適切だとお考えですか。(○は1つ)

問14-1 補問1	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
そのような書面が有効であるという法律を制定すべきである	139 48.1(%)	29 40.28(%)	212 49.88(%)	63 47.37(%)	34 53.97(%)	477
法律を制定しなくても、医師が家族と相談の上その希望を尊重して治療方針を決定する	146 50.52(%)	42 58.33(%)	209 49.18(%)	69 51.88(%)	27 42.86(%)	493
その他	2 0.69(%)	0 0(%)	3 0.71(%)	0 0(%)	1 1.59(%)	6
わからない	2 0.69(%)	1 1.39(%)	1 0.24(%)	1 0.75(%)	1 1.59(%)	6
合計	289	72	425	133	63	982

欠損値の度数 = 381

問 14-3 (代理人による意思表示)

事前に本人の意思の確認ができなかった患者の場合、「家族や後見人が延命医療を拒否したら、それを本人の意思の代わりとして治療方針などを決定すればよい」(代理人による意思表示) という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

問14-3	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
それでよいと思う	110 27.09(%)	27 35.06(%)	137 26.35(%)	54 30.51(%)	23 31.08(%)	351
そうせざるを得ないと思う	161 39.66(%)	28 36.36(%)	226 43.46(%)	70 39.55(%)	26 35.14(%)	511
そうは思わない	21 5.17(%)	4 5.19(%)	25 4.81(%)	5 2.82(%)	5 6.76(%)	60
その時の状況による	98 24.14(%)	18 23.38(%)	123 23.65(%)	41 23.16(%)	16 21.62(%)	296
その他	3 0.74(%)	0 0(%)	1 0.19(%)	1 0.56(%)	0 0(%)	5
わからない	13 3.2(%)	0 0(%)	8 1.54(%)	6 3.39(%)	4 5.41(%)	31
合計	406	77	520	177	74	1254

欠損値の度数 = 109

問 14-3 補問 4 (代理人による意思表示)

(問 14-3 で 3 以外をお選びの方に) 代理による意思表示のとき、代理として意思表示する人は誰が適当だと思いますか。(○は 1 つ)

問14-3 補問4	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
配偶者	289 77.48 (%)	50 72.46 (%)	360 74.07 (%)	121 71.18 (%)	45 65.22 (%)	865
兄弟姉妹	0 0 (%)	0 0 (%)	1 0.21 (%)	1 0.59 (%)	1 1.45 (%)	3
子供	24 6.43 (%)	1 1.45 (%)	41 8.44 (%)	13 7.65 (%)	4 5.8 (%)	83
親	7 1.88 (%)	1 1.45 (%)	11 2.26 (%)	3 1.76 (%)	6 8.7 (%)	28
後見人	7 1.88 (%)	2 2.9 (%)	15 3.09 (%)	11 6.47 (%)	3 4.35 (%)	38
主治医	4 1.07 (%)	0 0 (%)	1 0.21 (%)	3 1.76 (%)	0 0 (%)	8
主治医以外の医師 (かかりつけ医等)	1 0.27 (%)	1 1.45 (%)	1 0.21 (%)	0 0 (%)	0 0 (%)	3
福祉事務所など公的機関に所属する人	0 0 (%)	0 0 (%)	2 0.41 (%)	1 0.59 (%)	0 0 (%)	3
その他	14 3.75 (%)	8 11.59 (%)	28 5.76 (%)	6 3.53 (%)	4 5.8 (%)	60
わからない	27 7.24 (%)	6 8.7 (%)	26 5.35 (%)	11 6.47 (%)	6 8.7 (%)	76
合計	373	69	486	170	69	1167

欠損値の度数 = 196

問 14-3 補問 5 (代理人による意思表示)

(問 14-1 で 2 又は 3 をお選びの方に) 家族の中で意見がまとまらない場合、意思表示の書面がない場合、延命医療の中止の判断はどのようになさいますか。(○は 1 つ)

問14-3 補問5	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
家族や親戚など多数の意見に従ってほしい	9 12.33 (%)	0 0 (%)	2 3.77 (%)	3 12.5 (%)	1 12.5 (%)	15
配偶者など最も身近な人の意見に従ってほしい	38 52.05 (%)	3 75 (%)	27 50.94 (%)	11 45.83 (%)	2 25 (%)	81
担当する医師の考えで決めてほしい	5 6.85 (%)	0 0 (%)	3 5.66 (%)	4 16.67 (%)	1 12.5 (%)	13
全員一致しなければ、延命医療が継続されてもやむを得ない	15 20.55 (%)	1 25 (%)	21 39.62 (%)	6 25 (%)	4 50 (%)	47
わからない	6 8.22 (%)	0 0 (%)	0 0 (%)	0 0 (%)	0 0 (%)	6
合計	73	4	53	24	8	162

欠損値の度数 = 1201

問 15 (延命医療へのインフォームドコンセント)

単なる延命医療を続けるべきか中止すべきかという問題について、医師と患者の間で十分な話し合いが行われていると思いますか。(○は 1 つ)

問15	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
行われていると思う	44 10.73 (%)	12 16 (%)	76 14.62 (%)	18 10.34 (%)	8 10.67 (%)	158
不十分と思う	135 32.93 (%)	31 41.33 (%)	181 34.81 (%)	56 32.18 (%)	21 28 (%)	424
行われているとは思わない	108 26.34 (%)	13 17.33 (%)	104 20 (%)	47 27.01 (%)	21 28 (%)	293
その時の状況による	87 21.22 (%)	17 22.67 (%)	139 26.73 (%)	49 28.16 (%)	17 22.67 (%)	309
その他	4 0.98 (%)	0 0 (%)	5 0.96 (%)	1 0.57 (%)	2 2.67 (%)	12
わからない	32 7.8 (%)	2 2.67 (%)	15 2.88 (%)	3 1.72 (%)	6 8 (%)	58
合計	410	75	520	174	75	1254

欠損値の度数 = 109

問 16 (医療従事者間での意見の相違)

終末期医療において、治療方針について医師や看護・介護職員の間意見の相違が起こったことがありますか。(○は1つ)

問16	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
ある	94 23.44 (%)	63 82.89 (%)	242 46.27 (%)	64 35.36 (%)	25 33.33 (%)	488
ない	307 76.56 (%)	13 17.11 (%)	281 53.73 (%)	117 64.64 (%)	50 66.67 (%)	768
合計	401	76	523	181	75	1256

欠損値の度数 = 107

問 16 補問 (医療従事者間での意見の相違)

(問 16 で 1 をお選びの方に) その場合、意見の調整を多くの場合どのように図ってきましたか。(○はいくつでも)

問 16 補問 選択肢 1

問16 補問 選択肢① 主治医の意見にもとづく	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
×	76 81.72 (%)	58 92.06 (%)	203 83.88 (%)	56 87.5 (%)	23 92 (%)	416
○	17 18.28 (%)	5 7.94 (%)	39 16.12 (%)	8 12.5 (%)	2 8 (%)	71
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 16 補問 選択肢 2

問16 補問 選択肢② 患者を担当している看護・介護職員の意見にもとづく	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
×	92 98.92 (%)	61 96.83 (%)	238 98.35 (%)	64 100 (%)	25 100 (%)	480
○	1 1.08 (%)	2 3.17 (%)	4 1.65 (%)	0 0 (%)	0 0 (%)	7
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 16 補問 選択肢 3

問16 補問 選択肢③ 主治医と患者を担当している 看護・介護職員の意見にもと づく	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	72 77.42(%)	41 65.08(%)	180 74.38(%)	45 70.31(%)	14 56(%)	352
○	21 22.58(%)	22 34.92(%)	62 25.62(%)	19 29.69(%)	11 44(%)	135
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 16 補問 選択肢 4

問16 補問 選択肢④ 患者本人または家族の意見に もとづく	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	25 26.88(%)	12 19.05(%)	63 26.03(%)	15 23.44(%)	8 32(%)	123
○	68 73.12(%)	51 80.95(%)	179 73.97(%)	49 76.56(%)	17 68(%)	364
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 16 補問 選択肢 5

問16 補問 選択肢⑤ その他（具体的に）	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	89 95.7(%)	57 90.48(%)	227 93.8(%)	61 95.31(%)	24 96(%)	458
○	4 4.3(%)	6 9.52(%)	15 6.2(%)	3 4.69(%)	1 4(%)	29
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 16 補問 選択肢 6

問16 補問 選択肢⑥ わからない	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	93 100(%)	63 100(%)	240 99.17(%)	63 98.44(%)	25 100(%)	484
○	0 0(%)	0 0(%)	2 0.83(%)	1 1.56(%)	0 0(%)	3
合計	93	63	242	64	25	487

欠損値の度数 = 876

問 17 (終末期医療の重点課題) <職場別に frequency を算出>

あなたは、終末期医療において、どのようなことを今後重点的に行うべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

問 17 選択肢 1

問17 選択肢① 痛みなどの症状の緩和方法の 徹底と普及	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和 ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	その他(訪問看 護ステーショ ン含む)	
×	59 14.01 (%)	6 7.79 (%)	71 13.42 (%)	22 12.02 (%)	9 11.54 (%)	167
○	362 85.99 (%)	71 92.21 (%)	458 86.58 (%)	161 87.98 (%)	69 88.46 (%)	1121
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 2

問17 選択肢② 患者や家族に関する専門的な 精神科医やカウンセラーの関 与	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和 ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	その他(訪問看 護ステーショ ン含む)	
×	237 56.29 (%)	23 29.87 (%)	229 43.29 (%)	99 54.1 (%)	35 44.87 (%)	623
○	184 43.71 (%)	54 70.13 (%)	300 56.71 (%)	84 45.9 (%)	43 55.13 (%)	665
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 3

問17 選択肢③ 治療、ケアの方針に関する看 護師と患者・家族との十分な 話し合い	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和 ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	その他(訪問看 護ステーショ ン含む)	
×	113 26.84 (%)	4 5.19 (%)	114 21.55 (%)	44 24.04 (%)	11 14.1 (%)	286
○	308 73.16 (%)	73 94.81 (%)	415 78.45 (%)	139 75.96 (%)	67 85.9 (%)	1002
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 4

問17 選択肢④ 患者の死後、残された遺族に 対する援助サービス	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	353 83.85(%)	15 19.48(%)	418 79.02(%)	154 84.15(%)	59 75.64(%)	999
○	68 16.15(%)	62 80.52(%)	111 20.98(%)	29 15.85(%)	19 24.36(%)	289
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 5

問17 選択肢⑤ 患者や家族の看護に関して専 門的な知識技術をもった看護 師の関与	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	296 70.31(%)	17 22.08(%)	340 64.27(%)	135 73.77(%)	55 70.51(%)	843
○	125 29.69(%)	60 77.92(%)	189 35.73(%)	48 26.23(%)	23 29.49(%)	445
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 6

問17 選択肢⑥ 終末期医療におけるチーム医 療の充実	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	224 53.21(%)	11 14.29(%)	227 42.91(%)	78 42.62(%)	34 43.59(%)	574
○	197 46.79(%)	66 85.71(%)	302 57.09(%)	105 57.38(%)	44 56.41(%)	714
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 7

問17 選択肢⑦ その他（具体的に）	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	406 96.44(%)	62 80.52(%)	510 96.41(%)	177 96.72(%)	73 93.59(%)	1228
○	15 3.56(%)	15 19.48(%)	19 3.59(%)	6 3.28(%)	5 6.41(%)	60
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 17 選択肢 8

問17 選択肢⑧ 特になし	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	415 98.57(%)	77 100(%)	527 99.62(%)	181 98.91(%)	78 100(%)	1278
○	6 1.43(%)	0 0(%)	2 0.38(%)	2 1.09(%)	0 0(%)	10
合計	421	77	529	183	78	1288

欠損値の度数 = 75

問 18（終末期医療普及への具体的活動内容）＜職場別に frequency を算出＞

あなたは、終末期医療の普及に関し、どのようなことを充実していくべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。（○はいくつでも）

問 18 選択肢 1

問18 選択肢① 終末期医療に従事する医療従事者数の確保	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	187 44.42(%)	13 16.67(%)	257 48.49(%)	95 51.91(%)	40 51.95(%)	592
○	234 55.58(%)	65 83.33(%)	273 51.51(%)	88 48.09(%)	37 48.05(%)	697
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 2

問18 選択肢② 医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や生涯研修の充実	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	221 52.49(%)	12 15.38(%)	235 44.34(%)	74 40.44(%)	26 33.77(%)	568
○	200 47.51(%)	66 84.62(%)	295 55.66(%)	109 59.56(%)	51 66.23(%)	721
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 3

問18 選択肢③ 研究活動の推進	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	367 87.17 (%)	34 43.59 (%)	458 86.42 (%)	163 89.07 (%)	66 85.71 (%)	1088
○	54 12.83 (%)	44 56.41 (%)	72 13.58 (%)	20 10.93 (%)	11 14.29 (%)	201
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 4

問18 選択肢④ 患者、家族への相談体制の充実	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	183 43.47 (%)	8 10.26 (%)	196 36.98 (%)	78 42.62 (%)	27 35.06 (%)	492
○	238 56.53 (%)	70 89.74 (%)	334 63.02 (%)	105 57.38 (%)	50 64.94 (%)	797
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 5

問18 選択肢⑤ 在宅医療で十分な終末期医療が行えるような体制づくり	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	170 40.38 (%)	7 8.97 (%)	159 30 (%)	86 46.99 (%)	23 29.87 (%)	445
○	251 59.62 (%)	71 91.03 (%)	371 70 (%)	97 53.01 (%)	54 70.13 (%)	844
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 6

問18 選択肢⑥ 緩和ケア病棟の設置と拡充	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	220 52.26 (%)	25 32.05 (%)	283 53.4 (%)	100 54.64 (%)	33 42.86 (%)	661
○	201 47.74 (%)	53 67.95 (%)	247 46.6 (%)	83 45.36 (%)	44 57.14 (%)	628
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 7

問18 選択肢⑦ 一般病棟において十分な終末期医療が行えるような体制づくり	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	311 73.87(%)	27 34.62(%)	324 61.13(%)	131 71.58(%)	53 68.83(%)	846
○	110 26.13(%)	51 65.38(%)	206 38.87(%)	52 28.42(%)	24 31.17(%)	443
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 8

問18 選択肢⑧ 一般市民に対する教育活動	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	312 74.11(%)	20 25.64(%)	335 63.21(%)	123 67.21(%)	55 71.43(%)	845
○	109 25.89(%)	58 74.36(%)	195 36.79(%)	60 32.79(%)	22 28.57(%)	444
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 9

問18 選択肢⑨ 意思表示の事前文書などの法的整備	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	269 63.9(%)	43 55.13(%)	316 59.62(%)	107 58.47(%)	44 57.14(%)	779
○	152 36.1(%)	35 44.87(%)	214 40.38(%)	76 41.53(%)	33 42.86(%)	510
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 18 選択肢 10

問18 選択肢⑩ 終末期医療への経済的評価	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	その他（訪問看護ステーション含む）	
×	281 66.75(%)	23 29.49(%)	301 56.79(%)	114 62.3(%)	49 63.64(%)	768
○	140 33.25(%)	55 70.51(%)	229 43.21(%)	69 37.7(%)	28 36.36(%)	521
合計	421	78	530	183	77	1289

欠損値の度数 = 74

問 19 (終末期医療の現状)

あなたは終末期医療に対して、悩みや疑問を感じた経験がありますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

問19	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
頻繁に感じる	108 26.8 (%)	43 57.33 (%)	183 34.92 (%)	59 32.6 (%)	17 22.97 (%)	410
たまに感じる	236 58.56 (%)	29 38.67 (%)	320 61.07 (%)	111 61.33 (%)	48 64.86 (%)	744
感じたことはない	59 14.64 (%)	3 4 (%)	21 4.01 (%)	11 6.08 (%)	9 12.16 (%)	103
合計	403	75	524	181	74	1257

欠損値の度数 = 106

問 19 補問 (終末期医療での困難な状況) <職場別に frequency を算出>

(問 19 で 1 か 2 をお選びの方へ) 痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短期間を想定)患者の診療にあなた自身が携わって、どんな難しさを感じていますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

問 19 補問 選択肢 1

問19 選択肢① 患者へ病名、症状の説明をすること	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
×	135 39.71 (%)	44 61.97 (%)	171 34.06 (%)	74 44.05 (%)	32 50.79 (%)	456
○	205 60.29 (%)	27 38.03 (%)	331 65.94 (%)	94 55.95 (%)	31 49.21 (%)	688
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 2

問19 選択肢② 痛みをはじめとした症状を緩和すること	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	その他(訪問看護ステーション含む)	
×	178 52.35 (%)	31 43.66 (%)	306 60.96 (%)	97 57.74 (%)	41 65.08 (%)	653
○	162 47.65 (%)	40 56.34 (%)	196 39.04 (%)	71 42.26 (%)	22 34.92 (%)	491
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 3

問19 選択肢③ 患者や家族と話し合う時間を 持つこと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	219 64.41(%)	50 70.42(%)	317 63.15(%)	116 69.05(%)	42 66.67(%)	744
○	121 35.59(%)	21 29.58(%)	185 36.85(%)	52 30.95(%)	21 33.33(%)	400
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 4

問19 選択肢④ 患者や家族のための病院（施 設）内の設備や終末期医療施 設が乏しいこと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	199 58.53(%)	51 71.83(%)	232 46.22(%)	84 50(%)	30 47.62(%)	596
○	141 41.47(%)	20 28.17(%)	270 53.78(%)	84 50(%)	33 52.38(%)	548
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 5

問19 選択肢⑤ 在宅医療を実施したくても、 体制が十分でないこと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	161 47.35(%)	29 40.85(%)	209 41.63(%)	92 54.76(%)	31 49.21(%)	522
○	179 52.65(%)	42 59.15(%)	293 58.37(%)	76 45.24(%)	32 50.79(%)	622
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 6

問19 選択肢⑥ 延命のための医療を中止する こと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	258 75.88(%)	59 83.1(%)	367 73.11(%)	108 64.29(%)	47 74.6(%)	839
○	82 24.12(%)	12 16.9(%)	135 26.89(%)	60 35.71(%)	16 25.4(%)	305
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

問 19 補問 選択肢 7

問19 選択肢⑦ 医療チームで意見がわかれる こと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	321 94.41(%)	53 74.65(%)	462 92.03(%)	158 94.05(%)	56 88.89(%)	1050
○	19 5.59(%)	18 25.35(%)	40 7.97(%)	10 5.95(%)	7 11.11(%)	94
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

対象者属性：施設別内訳

対象者：医師

	施設合計	診療所	緩和ケア病棟	病院
調査人数	3147	1034	113	2000
回答者	1363	425	78	714
回答率	43.3%	41.1%	69.0%	35.7%

性別	施設合計		診療所		緩和ケア病棟		一般病床		療養病床	
男性	1182	86.7%	394	92.7%	70	89.7%	496	93.4%	148	80.9%
女性	115	8.4%	29	6.8%	8	10.3%	34	6.4%	34	18.6%
無回答	66	4.8%	2	0.5%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.5%

年齢	施設合計		診療所		緩和ケア病棟		一般病床		療養病床	
20～29歳	23	1.7%	0	0.0%	1	1.3%	18	3.4%	3	1.6%
30～39歳	178	13.1%	23	5.4%	18	23.1%	107	20.2%	23	12.6%
40～49歳	412	30.2%	103	24.2%	30	38.5%	203	38.2%	51	27.9%
50～59歳	359	26.3%	125	29.4%	24	30.8%	132	24.9%	55	30.1%
60～69歳	185	13.6%	79	18.6%	4	5.1%	56	10.5%	28	15.3%
70歳以上	140	10.3%	95	22.4%	1	1.3%	14	2.6%	22	12.0%
無回答	66	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.5%

終末期医療に関する調査（平成 15 年）再分析

－施設別の実態と取り組み そのⅡ 看護職員による回答－

国立保健医療科学院 林 謙治 児玉知子、熊川寿郎
久留米大学バイオ統計センター 角間辰之

前章「医師による回答の分析」に引き続き、施設別の看護職員による回答結果について分析を行った。付表は資料Ⅱとして掲げたので参照していただきたい。ここでは結果のみについて記述する。なお、表の見方であるが、補問は主問の限定された選択肢について質問したものであり、また、○印は複数回答の場合にある選択肢を選んだ度数を表している。

集計結果

1. 終末期医療への関心・患者の同意

「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル」について「非常に関心がある」と答えているのは緩和ケア病棟の看護職員で 59%であった。一般病院・療養病床の看護職員は 45-50%程度であった(問 1)。施設間の差は医師に比べ小さかった。病気の告知は「患者本人の状況を見て患者に説明するかどうか判断する」が最も多く、施設間の差がない(60-70%)。この点医師の場合は緩和ケア病棟を除いて「家族に説明する」割合がもっとも高く 50%を超えているのと比べ、きわだった違いをみせている(問 4)。「患者や家族が納得のいく説明ができています」と答えている看護職員は一般病院・診療所では 10%以下と低く、緩和ケア病棟でも 8%程度に過ぎない。この点医師とは異なった回答パターンになっているが役割の違いによる差と推察される。ほとんどの施設は「ある程度できています」と答えており 60%前後であった(問 5)。治る見込みのない病期に罹患した場合、その治療方針を決定するに当たり、先ず意見を聞く対象は緩和ケア病棟と他の施設で大きな開きがある。緩和ケア病棟では「患者本人に聞く」が 55%であるが診療所・一般病院では 10-18%に過ぎなかった、また、緩和ケア病棟では「家族に聞く」は少なく 1.2%に過ぎない(問 6)。

2. 延命治療

患者が痛みを伴い、治る見込みがなく死期が迫っている場合、「単なる延命だけの医療はやめたほうがよい」という意見がいずれの施設も過半数を超え、施設間の差もあまりみられないが、「つづけるべき・やめるべきである」と言い切る割合は医師に比べ低い傾向にあった(問 7)。それではどのように延命治療を中止するかについて、「苦痛

の軽減に重点」としているのが8割以上で緩和ケア病棟では特に高く95%であった。「延命医療を中止し、自然死を迎えさせる」は緩和ケア病棟はめだって低く(4.1%)、それ以外の施設では10-15%程度であり、また、「積極的手段によって生命を短縮」はほとんどなかった(問7補問1)。

3. 療養生活・在宅ケア

終末期に苦しむ患者に療養生活のアドバイスとして、緩和ケア病棟の看護職員は「緩和ケア病棟もしくは自宅との併用」を勧める割合が高く(83%)、一般病院の看護職員は「自宅と病院の組み合わせのほか、緩和ケア病棟の併用」を勧める割合が高い(82%)(問8-1)。最後まで「自宅療養は難しい」とする施設は緩和ケア病棟・訪問看護ステーションでは低く、それぞれ22%、30%であった。それ以外の施設ではほとんど50%を超えている(問8-2)。自宅療養は難しいとする理由は一般病院では「家族の負担」、「急変時の不安」、「往診医がない」、「訪問看護体制の不備」を多く挙げており、診療所も「往診医がない」を除いて同様な傾向を示している(問8-2補問選択肢1-11)。

4. 疼痛緩和

WHOの疼痛治療法について「内容をよく知っている」割合は緩和ケア病棟では59%(医師は85%)であったが、その他の施設では5%以下と低く(医師は6-17%とやはり低い)、「ある程度知っている」は30%と施設間の差が少なかった(問9-1)。モルヒネの有効性・副作用について説明できる割合は緩和ケア病棟ではほぼ76%であり(医師は97%)、他の施設では6-27%と幅が大きい(医師は27-49%とやはり幅が大きい)(問9-2)。

5. 植物状態の延命治療

「持続的植物状態の単なる延命治療はやめたほうがよい、もしくはやめるべきである」が大勢の意見である。ただし、医師に比べ「やめるべきである」という断定的意見は少ない(問11)。延命中止の判断は「生命の助かる見込みがないと診断されたとき」は20%台が多く、さらに「死期が迫っている」という条件が加わると肯定する意見がさらに高まり46-64%であった。(問11補問1)。そして延命治療中止容認者のほとんどがこの段階に至っての人工呼吸器の中止を認めている(問11補問2)。なお、経管栄養、点滴、床ずれの手当て、全身清拭、喀痰吸引、留置カテーテル導入、眼の乾燥予防、酸素吸入の医療行為についてはおおむね肯定的であり(問11補問3、選択肢2,9,12,13,14,15,16)、他方、中心静脈栄養経由の高カロリー輸液、自動血圧計による血圧監視、心電図モニター、気管支切開、心臓マッサージ、昇圧剤の投与、抗生剤の投与、輸血についてはどちらかと言えば否定的な傾向であった(問11補問3、選択肢3,4,5,6,7,8,11)。

6. リビングウィル

「リビングウィルに従って治療方針を決める」考え方に賛成する看護職員は医師の場合と同様勤務施設にかかわらず大勢を占めた(問14-1)。ただし、「法律によって有効性を担保するか」それとも「家族と相談すればよい」については後者のほうが若干優勢であったが意見が分かれた(医師の場合も同様)(問14-1補問1)。リビングウィルの内容に反対する家族・代理人がいた場合、おおむね「家族・代理人の意見に従うもしくは

はやむを得ない」として容認するが大半を占め、施設間の差はないが、約28%の看護職員はそのときの状況によつてとしている（問14-3）。そして代理の意思表示は配偶者がよいとするのが大半であった（問14-3 補問4,5）。「単なる延命治療を続けるべきか中止すべきか」について医師と患者の間で「十分な話し合いが行われている」としているのは10%程度であった（医師の回答でも同程度）（問15）。

7. 医療従事者間の意見の相違

医師と看護介護職員間の意見の相違がおこったことがあるかどうかの質問について、緩和ケア病棟が一番多く（84%）、医師による回答とほぼ同率であった。一般病院でも64%に達していたのに比べ医師は46%と受け止め方に開きがあった。診療所は31%であった（問16）。その際の意見調整は医療従事者サイドで行うよりも「患者本人もしくは家族の意見にもとづく」としているほうが大多数（53-70%）であったが「主治医の意見にもとづく」（27-41%）が多かった（医師は8-18%）。（問16 補問選択肢1-6）。

8. 終末期医療の重点課題

終末期医療の重点課題として挙げられたのは「痛みなど緩和方法の普及」が最も多く、次いで「チーム医療の充実」が挙げられており、「治療・ケアに関する看護師と患者・家族との十分な話し合い」と「精神科医やカウンセラーの関与」も高率であった。（問17 選択肢1-8）。

9. 終末期医療の普及・充実への要望

終末期医療の普及にあたって充実していくべき内容として、「相談体制の充実」、「在宅ケアの整備」、「卒前・卒後・生涯教育」、「緩和ケア病棟の充実・拡充」、「医療従事者の確保」に対する要望が多く、そのほか、「市民教育」、「リビングウィルの法整備」に関する要望が高かった。「一般病棟でも十分な終末期医療が行えるようにする」についての要望は緩和ケア病棟から強く出されているが他の施設はむしろ低率であった。また、終末期医療の経済的評価についても緩和ケア病棟のほかに一般病棟や訪問看護ステーションから強い要望がある、この点について医師の回答とやや異なる意見がみられた（問18 選択肢1-10）。

10. 終末期医療の困難

ほとんどの施設で多かれ少なかれ悩みや疑問を感じているようである（問19）。病名の告知や症状の説明に困難を感じている施設が多く、緩和ケア病棟でも38%に達するが一般病院・診療所では医師に比べ若干低いが38-55%程度ある（問19 選択肢1）。ほとんどの施設の看護職員は「痛み等の緩和に困難」を感じている（58-67%）（問19 選択肢2）。「在宅医療の体制が不十分」と訴えるのは施設間の差がなく50%を超えている（問19 選択肢5）。興味深いことに「延命治療の中止」に困難を感じている割合は医師と同様それほど高くないのは実際ジレンマに陥る場面がすくないせいであろうか（問19 選択肢6）。

考察

集計結果全体を通してみると、緩和ケア病棟は設立主旨からして当然であるが、医師による回答の場合と同様に他の施設に比べ終末期医療への取り組みに熱心であり、一定水準の技術を持っていると評価できよう。また、一般病院・診療所等の施設については終末期に対応する設備、技術、体制が必ずしも整っていないために困難を感じている事柄が少なくない。ただし、医師の場合と違うのは施設間格差が極端に大きいということが少ない。また、看護職員という立場もあって治療方針について医師ほど強い意見が述べられていないが、ケア面に関して確固たる意見を持っていることが多い。

資料 II

問 1 (終末期医療に対する一般的な意識)

最近、終末期医療に関して「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル(書面による生前の意思表示)」などの問題が話題になっていますが、あなたはこれらに関心がありますか。(○は1つ)

問1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
非常に関心がある	109 31.78(%)	49 59.04(%)	244 44.94(%)	125 48.45(%)	157 50.32(%)	66 36.67(%)	750
まあ関心がある	210 61.22(%)	29 34.94(%)	282 51.93(%)	122 47.29(%)	145 46.47(%)	106 58.89(%)	894
あまり関心がない	22 6.41(%)	4 4.82(%)	15 2.76(%)	10 3.88(%)	10 3.21(%)	7 3.89(%)	68
ほとんど(全く)関心がない	2 0.58(%)	1 1.2(%)	2 0.37(%)	1 0.39(%)	0 0(%)	1 0.56(%)	7
合計	343	83	543	258	312	180	1719

欠損値の度数 = 72

問 4 (告知する対象者)

あなたの担当している患者が見込みのない病期に罹患した場合、その病名や病期の見通し(治療期間、余命)について、まずどなたに説明しますか。(○は1つ)

問4	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
患者本人に説明する	21 6.09(%)	24 29.27(%)	51 9.38(%)	21 8.11(%)	35 11.15(%)	13 7.43(%)	165
患者本人の状況を見て患者に説明するかどうか判断する	219 63.48(%)	53 64.63(%)	378 69.49(%)	171 66.02(%)	218 69.43(%)	118 67.43(%)	1157
家族に説明する	95 27.54(%)	3 3.66(%)	104 19.12(%)	58 22.39(%)	54 17.2(%)	40 22.86(%)	354
患者本人、家族ともに説明しない	8 2.32(%)	1 1.22(%)	10 1.84(%)	8 3.09(%)	3 0.96(%)	4 2.29(%)	34
わからない	2 0.58(%)	1 1.22(%)	1 0.18(%)	1 0.39(%)	4 1.27(%)	0 0(%)	9
合計	345	82	544	259	314	175	1719

欠損値の度数 = 72

問5 (告知、インフォームドコンセント)

あなたは病名や病気の見通しについて、患者や家族が納得のいく説明ができていると考えていますか。(○は1つ)

問5	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
できている	27 7.85(%)	7 8.43(%)	18 3.31(%)	18 6.92(%)	5 1.59(%)	11 6.15(%)	86
ある程度できている	209 60.76(%)	60 72.29(%)	345 63.42(%)	154 59.23(%)	122 38.85(%)	102 56.98(%)	992
できていない	60 17.44(%)	15 18.07(%)	153 28.13(%)	68 26.15(%)	163 51.91(%)	41 22.91(%)	500
わからない	48 13.95(%)	1 1.2(%)	28 5.15(%)	20 7.69(%)	24 7.64(%)	25 13.97(%)	146
合計	344	83	544	260	314	179	1724

欠損値の度数 = 67

問6 (治療方針の決定)

あなたの担当している患者が治る見込みのない病期に罹患した場合、その治療方針を決定するに当たり、先ずどなたの意見を聞かれますか。(○は1つ)

問6	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
患者本人の意見を聞いた方がよい	49 14.24(%)	46 55.42(%)	98 18.01(%)	33 12.69(%)	48 15.29(%)	19 10.56(%)	293
患者本人の状況を見て誰にするかを判断した方がよい	242 70.35(%)	35 42.17(%)	388 71.32(%)	185 71.15(%)	244 77.71(%)	133 73.89(%)	1227
家族の意見を聞いた方がよい	43 12.5(%)	1 1.2(%)	55 10.11(%)	41 15.77(%)	19 6.05(%)	24 13.33(%)	183
患者本人、家族ともに意見を聞かない方がよい	3 0.87(%)	1 1.2(%)	3 0.55(%)	1 0.38(%)	2 0.64(%)	2 1.11(%)	12
わからない	7 2.03(%)	0 0(%)	0 0(%)	0 0(%)	1 0.32(%)	2 1.11(%)	10
合計	344	83	544	260	314	180	1725

欠損値の度数 = 66